

○8 番（福本達雄君）

8 番、福本達雄です。

観光施策についてお尋ねしたいと思います。

まず、夜間観光について、本町は瀬戸内海の豊かな自然環境に恵まれています。しかし、観光の多くは昼間型であり、夜間の観光資源は十分に活用されているとは言えません。

昨年夏に海ほたる観察会がありました。島内で 19 回開催され、延べ約 1200 人が訪れ、島民にも観光客にも大人気のイベントになったと聞いています。

滞在時間の延長、宿泊率の向上、閑散期対策を考える上で夜の魅力づくりは重大な課題であると考えます。

1、本町は夜間観光をどのように位置付けているのか伺います。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

観光産業は、当町の重要な基幹産業と位置付け、第 7 次総合計画において、観光客の増加及び宿泊者数の増加を目標値としております。

議員ご指摘のとおり、コロナ禍を経て日帰り観光の割合が増えており、町内への経済波及効果は限定的となることから、宿泊につながる夜の魅力づくりは重要な課題であると認識しております。

2024 年に策定しました、小豆島観光ビジョンにおきましては、小豆島ならではの体験コンテンツの強化を図ることを基本戦略の 1 つに掲げ、アクションプランの中でも、明かり、光、花火などを活用した夜のコンテンツの造成やイベントを実施すると位置付けております。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○8 番（福本達雄君）

夜の観光、夜間観光について、海辺の自然観察が一番取り組みやすいのではと海ほたるに着目しました。海ほたるは、海の環境が良好であることを示す指標でもあり、観察体験は観光教育と観光両立できる可能性があります。若年層ファミリー層の誘致が期待でき、観光資源であると同時に、環境を守る象徴にもなり得る存在で、海岸清掃活動とも連動します。

海ほたるの観察について、何かご意見ございませんでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

海ほたるをとということですが、私も数回見てまいりまして、多くの方に来ていただいて好評でありました。

議員おっしゃるように、夜型の観光を推進していくためには、小豆島、海とか空、山ありますので、そういった山や海といった自然環境を生かしたあるいはその学びを取り入れたようなコンテンツも考えていく必要があるかというふうに考えております。

先ほど来、出ております持続可能な観光の推進においては、アワードの申請時にですね、その環境というものも審査項目の1つでもあります。

そういった中でですね、現在両町で、海辺のクリーン作戦であったり、あるいはその海浜清掃などの海洋保全活動とツーリズムを合わせたようなツアー造成ですね。そういったものも今現在やってる状況でありまして、環境と観光を連動させたような取り組み、そういったものも官あるいは民の方でなされているといったところであります。

議員おっしゃる海ほたるもその一例でありまして、そういった自然を生かした、1つの夜型コンテンツとして、そういった可能性を今後探ってまいりたいというふうに考えております。

先般、小豆島町議会の方でもですね、同じようなご質問、質疑がなされたというふうに聞いておりまして、その中でも小豆島町の方では、例えば小豆島観光協会と連携して、そういった情報発信であったり周知をしていきます。

それからもう1つですね、会場、おそらくオリーブ公園だったと思うんですが、その受け入れの周辺環境ですよ。そういった駐車場の、ちょっと数とか、そういったところの支援とかを含めてですね、海ほたるについてもやっていきたいというふうな答弁があったというふうに聞いておりますので、両町とあるいはその観光協会連動しながらですね、海ほたるについても検討してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○8番（福本達雄君）

民間業者と連携を密にし、両町、小豆島町、土庄町共同事業として、ナイトタイムツーリズム、夜間観光には取り組んでいただきたいと思います。

続いて、アウトドア観光の振興についてです。本町は、海、山、溪谷などのアウトドア資源に恵まれていると言えます。キャンプやSUP、クライミングなどの需要はあるものの、滞在型、通年型産業への転換ができていない状況ではないでしょうか。

そこで町としてはアウトドア観光を重点施策として位置付けているのでしょ

うか、伺います。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

アウトドア振興につきましては、両町で策定しました小豆島観光ビジョンにおいて、体験プログラムやコンテンツの造成をアクションプランで定めております。

本町は、令和2年から「モンベルフレンドタウン」として、アウトドアメーカーのモンベルと連携し、さらに令和5年度からは、小豆島町とも連携し「モンベルフレンドアイランド」としてアウトドア施策を進めております。また、今年度からは、アウトドアに特化した地域おこし協力隊を採用するなど、アウトドア振興による観光の推進を図っているところであります。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○8番（福本達雄君）

観光の推進を図っていくこととされましたが、具体的な数値目標、傾向の把握はあるのでしょうか、伺います。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

町の第7次総合計画におきまして、アウトドアも含めた体験型コンテンツを令和9年度までの目標数値として10件と設定しております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○8番（福本達雄君）

アウトドアは単なる観光でなく、移住促進、若年層誘致、関係人口創出、地域経済の底上げにつながります。

自然は本町、最大の資産、これを守りながら活かす仕組みをつくることが持続可能な観光につながると考えます。

そこで、アウトドア振興にはキャンプ場の付加価値化、トイレ、シャワー等の設備改善、空き家活用型のアウトドア拠点、海岸や山道の安全管理が不可欠であると考えますが、既存キャンプ場の高規格化や民間事業者との連携、支援策について取り組みがあるのか、伺います。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

まず、民間企業との連携ということですが、先ほどもモンベルとの連携は申しました。アウトドアにおけます民間事業者との連携としましては、この10月に大阪城残石記念公園の方で、ヨットクルージングやSUP、ホビーなどの海の資源を活用した、アウトドアイベントを初めて実施しました。

また、持続可能な観光の推進の一環としまして、11月に小豆島で開催されました「瀬戸内JAM」というイベントにおきまして初めて、障がいのあるなし、また、年齢などにかかわらず、誰もがアウトドアを楽しめるコンテンツを取り入れた「アクセシブル・アウトドア」を初めて実施いたしました。

また、今年度採用しました地域おこし協力隊が、大部地区を中心に活動する中で、3月に初めてですね、日本屈指のスケールを誇ると言われます「赤嶽」でのアウトドア体験会を実施いたします。

その他、民間との連携としまして、世界一狭い「土渕海峡」でのSUP体験であったり、あるいはモンベルと連携した、日本遺産を取り入れた「石の島ハイキング」など、本町の豊かな自然を活用したアウトドア観光を推進するとともに、観光ニーズの多様化に合わせて、地域特有の歴史・文化・産業などを体験できるメニューを盛り込んだ体験型コンテンツの開発と推進を図っております。

施設整備としましては、近年、民間事業者のノウハウやアイデアを活かしたグランピング施設なども整備されてきております。

なお、町においては、残石記念公園のビジターバースに給電・給水設備を整備するため、観光庁の補助事業に現在応募中であります。

これまでの観光に加えまして、アウトドアコンテンツの充足を図るとともに、観光客の分散化、そしてより多くの観光客の満足度を高めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

福本達雄君。

○8番（福本達雄君）

提案として、空き家活用型の拠点づくりをお願いしたい。そういうことに支援をお願いしたいことです。また、トイレ、シャワーの設備改善、遍路道の整備などの連携支援をお願いし、質問を終わります。